



印西市議会議員

こんにちは!

series2 vol.16

ますだようこです

発行/増田葉子 2019.3.15 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com
ホームページもご覧いただけます <http://www.masuda-yoko.com>

3月定例議会の議案と、私の市政への視点、これからの取り組みをお知らせします。

3月議会の議案

①条例の制定 3件

森林環境税の創設に伴い、国からの地方譲与税を積み立てておく基金の設置条例と、昨年度から進められている市役所の組織改革の関係条例2件。

②条例の一部改正 23件

10月からの消費税増税に伴い手数料、使用料を改定するものと、小学校の統廃合や市役所の組織改革に伴う関係条例。

③補正予算 6件

一般会計では、年度末の執行残の寄せ集めに財政調整基金約10億円をくずし、福祉と教育の目的基金に10億円ずつ積み立てている。

④31年度当初予算 6件

一般会計の予算規模は367億5千万円で前年比8.5%の増。福祉131億円、教育66億円で、待機児童解消に向け保育園が5園新設されるなど、2部門で歳出全体の半分超をしめる。市税収入は対前年比6%増で計上。

⑤市道の認定 1路線

鹿黒南の物流施設への引き込み道路を認定

⑥報告 5件

懲戒免職となり、公平委員会の裁定により身分回復した職員への給与の遅延損害金を専決処分した報告と、公用車の事故など4件。

最後の締めくくりに

改選を控えた定例議会、一般質問をする議員が半減するなかで、今回も、これまで重点的に取り組んできた「高齢化への対策」と「公共施設の再配置構想」について質問しました。

公共施設の再配置については、「適正配置実施方針」が策定されたばかり

で、31年度はその方針に基づき、担当課が再検討し、実施計画（アクションプラン）を策定することになっています。

そこで、コミュニティセンターや図書館、子育て支援施設など、市民生活にとって大事な公共施設が、それぞれの担当課でこれからどのように検討されるのか質問してみました。

人口増なのに減らす「適正配置」

印西市の公共施設は、人口が今の半分ほどだった20年前までに、そのほとんどが造られました。宅地はどんどん広がって人口は増えていますが、市民が身近に利用するコミュニティセンターや図書館などが連動して増えているわけではありません。それどころか「将来は人口が減る」と、今よりも減らす検討をしています。それが上記の「適正配置実施方針」です。行政が「適正」という言葉を使うとだいたい削減です。

全国的にはどこも人口減少、財政難で、「公共施設を減らしてコストカットしろ」という国の大号令に従い、公共施設減らしを行っています。しかし、印西市は人口が倍増しています。事情は地域によって違うはずなのに、全国一律の方針に真面目に取り組み、人口増の適正配置を考える前に、将来の人口減に備えた適正配置に取り組んでいるのです。

図書館はどこも最低基準以下

人口増への対策がいかに必要か、一つの例として図書館をとり上げました。実施方針によると図書館は、一つから複数の中学校区をあわせた「中圏域」で利用するものとされているので、中圏域ごとに人口一人あたりの面積と蔵書を計算してみました（下表）。それによると、一人あたりの蔵書がもっ

各図書館の利用人口あたりの面積と蔵書

図書館名	中学校区 (中圏域)	域内人口 (人)	床面積 (㎡)	蔵書 (冊)	域内人口一人あたり		図書館協会基準	
					面積(㎡)	蔵書(冊)	面積(㎡)	蔵書(冊)
大森図書館	印西中	13,467	1,149	176,522	0.085	13.1	1,408	90,911
小林図書館	小林中	7,546	247	45,258	0.033	6.0	1,112	69,596
小倉台図書館	木刈中、船穂中、原山中	40,944	1,622	154,251	0.040	3.7	2,782	217,241
そうふけ図書館	西の原中	13,564	500	82,953	0.037	6.1	1,413	91,260
印旛図書館	印旛中	13,191	376	57,196	0.029	4.3	1,394	89,918
本埜図書館	滝野中、本埜中	8,609	323	36,760	0.038	4.2	1,165	73,422

とも多い大森図書館の13冊に比べて、人口増が著しいニュータウン中央の小倉台図書館は3.7冊、一人あたりの面積がもっとも少ないのは、やはり人口急増のいには野地区を抱える印旛図書館で、大森図書館の0.085㎡に比べて0.029㎡と3分の1になっています。

さらに、日本図書館協会が「図書館のあるべきレベル」として設定している数値基準と比較してみたところ、クリアしていたのは大森図書館の蔵書のみで、あとはどの図書館も、「あるべきレベル」を満たしていないという残念な結果となりました。おそらく過去にはクリアされていたのですが、人口増への対応をまったく検討してこなかった結果だと思えます。

近年、注目される図書館の姿は、単に本の貸し借りをするだけでなく、ゆったりとした閲覧スペースをもち、喫茶店やレストラン、ギャラリー、市民サロンなどが併設され、多

くの市民が集まるやすらぎの空間としての図書館です。人が集まる拠点、文化の拠点たる公共施設があって初めて、心豊かな地域社会が生まれます。

市役所は「印西牧の原地区に」

実施方針には築43年になる市役所庁舎についても触れており、「建て替え時には立地場所を含めた検討をする」と記載されています。合併してまもなく10年となり、これからも人口の偏在が進んでいくと思われる中で、市役所の適地はどこでしょうか。私は、ちょうど市域の真ん中にあたる、印西牧の原駅周辺のどこかに移転して建て替えるべきと思っています。築50年を過ぎ、いよいよ建て替えとなったときに、「適当な土地がない」ということにならないよう、今から真剣に検討に入るべきです。市役所を軸とした、現在の市の姿にふさわしい公共施設の再配置構想、計画が必要です。



まずだようこの取り組み

住み良さ実感、日本一へ

住み良さランキング7冠の印西市。向かうところ敵なし、と誇らしく思いたいところですが、「実感がない」「住み良いけど何か足りない」と感じる方が多いのではないのでしょうか…。

私は、4年間の活動のなかで、「足りないのは『文化』ではないか」と思いました。地域の生活文化は人と人のつながりから生まれます。印西市には人と人のつながりをつくる政策も施設も足りません。また、心豊かな生活を実感できる芸術ホールやギャラリー、図書館も足りません。

人口が増えて10万人を超え、企業も増えて、財政は全国屈指の豊かさになりました。いよいよ「住み良さ実感」で日本一をめざすときです。

日本一の栄冠に、暮らしの実感が伴うよう、市民の皆さんとともに、一步一步できることから取り組んでまいります。

居場所のあるまち

- 地域の助け合いの仕組みをつくり、年をとっても安心して住めるまちづくりに取り組みます
- 心細いとき 心配なとき 困ったときに誰でも相談できる「まちの保健室」をつくります
- ニュータウン中央南など子ども人口が増えている地区に、児童館のような安心な遊び場をつくります

車がなくても暮らせるまち

- タクシー券の充実など、車がなくても暮らせる公共交通の仕組みづくりに取り組みます
- 歩行者にやさしい道づくりに取り組みます
- 市役所までいかなくても済むよう、支所・出張所の充実、公共サービスのITC化に取り組みます

心がワクワクする文化のまち

- 千葉ニュータウン中央駅前に文化ホール、図書館の整備に取り組みます
- 必要なところにコミュニティセンターを設置し、人と人がつながるまちづくりに取り組みます
- 家族で、一人で、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます